

# 国士舘大学大学院入学試験問題用紙

修士課程

研 究 科	専 攻	試 験 科 目	参考書等持込
経済学研究科	経済学専攻	金融論研究	不可

次に出題する 3 問のうち, 2 問選んで, それぞれの解答用紙に解答せよ.

【問題 1】

(1) コール・オプション (call option) とはどのような金融商品か「権利」という言葉を用いて説明せよ.

(2) ヨーロピアン・コール・オプション (European call option) とアメリカン・コール・オプション (American call option) の違いを説明せよ.

(3) プット・オプション (put option) とはどのような金融商品か「権利」という言葉を用いて説明せよ.

(4) 年間金利を 5% とする. 1 年後に 315 円で売買される金融商品の現在価値を求めよ.

※ 解答用紙に導出過程の式も全て記述せよ.

(5) 株式  $S$  に関するヨーロピアン・コール・オプションを 2 項過程モデルに基づいて考える. このコール・オプション  $C$  は 1 年後の行使価格が ¥1000 で, 販売価格が, ¥300 である. 原資産である株式  $S$  の価格は, 現在 ¥1000 として, 次の問いに答えよ.

※ 以下の問題は, 解答用紙に導出過程の式も全て記述せよ.

i) 1 年後に 株式  $S$  の価格が ¥1400 に上昇したとき, 本オプションの買い手の損益と, 売り手の損益をそれぞれ求めよ.

ii) 1 年後に 株式  $S$  の価格が ¥800 に下落したとき, 本オプションの買い手の損益と, 売り手の損益をそれぞれ求めよ.

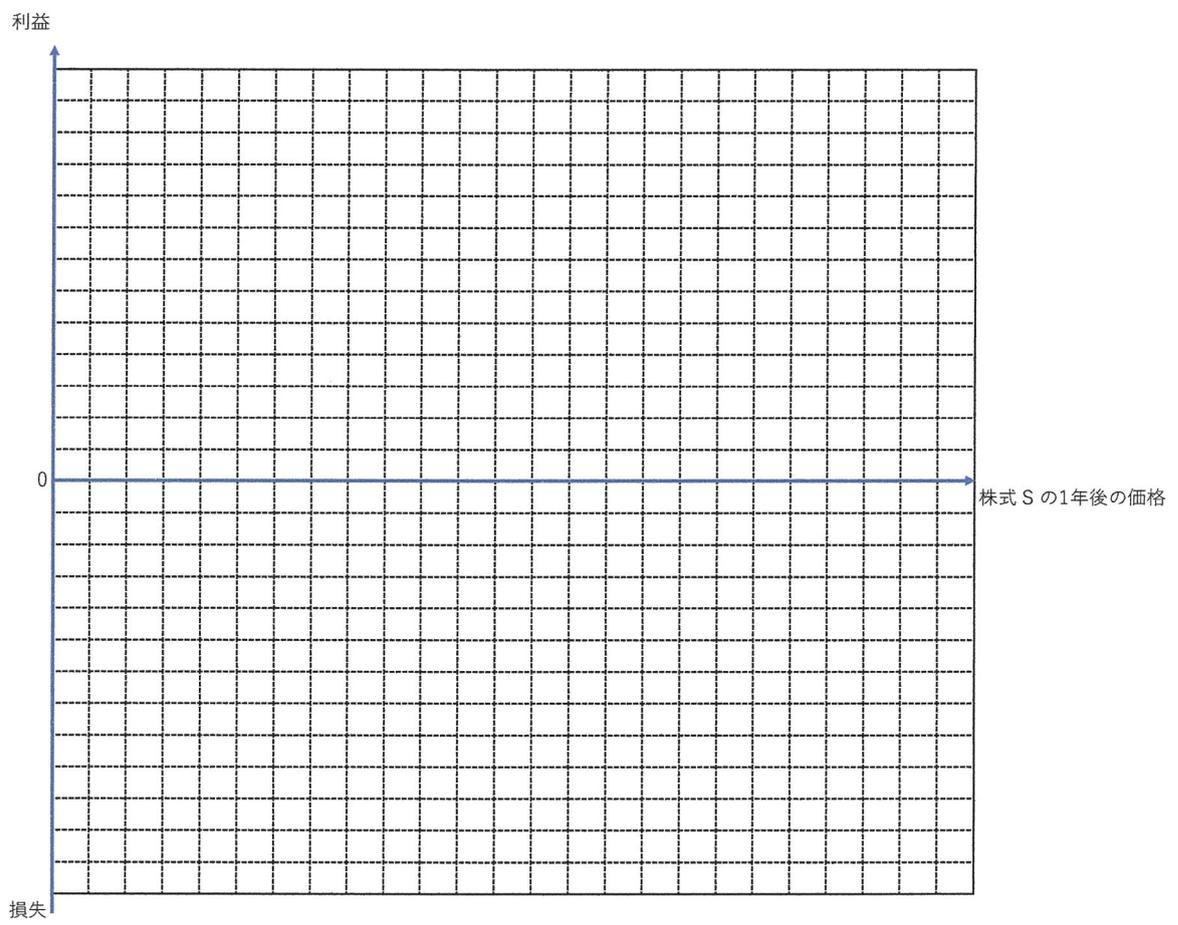
iii) コールオプション  $C$  について, 株式  $S$  の 1 年後の価格  $B$  と, 売り手と買い手の損益を表すグラフを解答用紙の所定の箇所に記入せよ.

(6) 年間金利を 5% とする. 1 年後に, 株式  $S$  の価格が ¥1420 に上昇する確率を 0.6, 価格が ¥790 に下落する確率を 0.4 とする. このとき, 以下の問いに答えよ.

※ 以下の問題は, 解答用紙に導出過程の式も全て記述せよ.

i) 1 年後の行使価格が 1000 円であるコール・オプション”の価値 (オプション・プレミアム) を計算せよ.

ii) 1 年後の行使価格が 1000 円であるプットオプション”の価値 (オプション・プレミアム) を計算せよ.



【問題 2】

(1) 名目利子率と実質利子率の関係を、「期待インフレ率」という言葉を用いて説明せよ。

(2) 利子率と利回りの違いについて「元本」という言葉を用いて説明せよ。

(3) 短期金利と長期金利を代表する金利をそれぞれ答えよ。

(4) 利回りが 0.02, 額面価格が 100 万円の 1 年物債券（ゼロ・クーポン債）の現在価値を計算せよ。ただし、答えは小数点第 1 位を四捨五入して、整数で答えよ。

※ 解答用紙に導出過程の式も全て記述せよ。

(5) 現在価格が 120 万円で、1 年後に 130 万円が償還されるゼロ・クーポン債の利回りを計算せよ。ただし、答えは小数点第 1 位を四捨五入して、整数で答えよ。

※ 解答用紙に導出過程の式も全て記述せよ。

(6) 物価上昇率が 0.05 のとき、1 年後の 100 万円の現在価値を計算せよ。ただし、答えは小数点第 1 位を四捨五入して、整数で答えよ。

※ 解答用紙に導出過程の式も全て記述せよ。

(7) 1 年後に額面価格が 100 万円となる 1 年物債券（ゼロ・クーポン債）を、現在 95 万円で購入した。1 年後の物価上昇率が 0.02 であるとき、この債券の実質利回り（物価上昇率の影響を考慮した利回り）を計算せよ。ただし、答えは小数点第 1 位を四捨五入して、整数で答えよ。

※ 解答用紙に導出過程の式も全て記述せよ。

【問題 3】

(1) 金融政策の波及効果のメカニズムとして、1) ケインズ効果、2) 資産効果、3) アベイラビリティ効果の3つの経路について説明せよ。

(2) 金融政策の効果の非対称性について説明せよ。

(3) 近年、各国の中央銀行が金融政策を運営 / 分析する上で、New Keynesian Model（以下、NKM）と呼ばれる理論モデルを参考に行っている。NKM を構成する、IS 曲線と NK フィリップス曲線の意味を説明せよ。

(4) NKM には、貨幣市場の均衡条件を表す「LM 曲線」がありません。代わりに金融市場の金利を決定するのは、どのようなルールですか。名称を答えよ。また、そのルールを説明せよ。

(5) 2024 年 3 月まで日本銀行が実施してきた「量的質的金融緩和政策」において、「将来のインフレへの期待が、現実のインフレ率に影響する」という NKM の考え方を採用した政策が実施されました。この政策の名称と手段を答えよ。

(6) NKM において、将来のインフレへの期待が、現実のインフレ率に影響するルートを説明せよ。

令和 8 年度 国士舘大学大学院入学試験

出題の意図と採点のポイント

研究科名	経済学研究科 経済学専攻
試験期別	I 期
試験区分	一般選考
試験科目名	金融論研究

■出題の意図

■採点のポイント

**【出題の意図】**

【問題 1】ファイナンスにおいて、金融派生商品（オプション）の価格付けは重要なテーマである。最も基本である call/put option の価格の決定理論の理解は、大学での学修/ 研究に不可欠であることから、理解度を確認する。

【問題 2】金融の目的の一つは、現在消費と将来消費の交換である。よって、現在価値と将来価値の区別は必要不可欠である。将来の価値を現在価値に換算する「割引現在価値」や、お金の価値である金利とインフレ率の関係についての理解度を確認する。

【問題 3】金融政策は金融における最重要テーマの一つである。現在世界各国の中央銀行が政策の参考としている理論についての理解度を確認する。

**【採点のポイント】** 【問題 1】用語の説明における正確さ：30%、答えの導出過程における算出プロセス

の適格さ：30%、答えの一致：30%、その他：10%

【問題 2】用語の説明における正確さ：30%、答えの導出過程における算出プロセスの適格さ：30%、答えの一致：30%、その他：10%

【問題 3】用語の説明における正確さ：30%、論理の適切さ：30%、答えの一致：30%、その他：10%